

## 1 自己評価

### I 評価結果

(別紙参照)

### II 分析・改善方策

1 **【グローバル・リーダーの育成】** 本校が定めたグローバル・リーダーに必要な6つの資質・能力を伸張し、生徒の学習意欲や進路意識を高めるとともに、生徒一人一人が国際的な視野を拓げる機会を充実させ、世界の課題に果敢に挑戦するグローバル・リーダーを育成する。

①「未来航路プロジェクト」の内容の見直し、3年間の活動内容を見通して学習内容を精選する。高校における課題研究との関連を図り、各学年においてポスターセッション等を含めた多様な発表方法を行う。**【進路課】**

・未来航路発表会ではポスターセッションを実施し、全員が発表できる場を設定した。年間を通じて、伝える方法を指導するとともに、発表に対する評価の仕方も示したことで各々の追究学習が深まった。

②グローバル・リーダーとしての自己実現が図られるようなグローバル講演会を計画、実施する。**【総合的な学習研究開発係】**

・グローバルな視点に関わる講演会等を実施し、生徒の大多数から「良かった」という感想を得た。

③グローバル・リーダーの育成を目標に、生徒の自主的、実践的な態度・技術やコミュニケーション能力の伸張を図る。「課題研究」「海外研修」「コミュニケーションスキル」「社会貢献活動」の各活動場面への積極的な参加を促す。さらなる中高の連携を進める。**【SOZAN国際塾】**

・SOZAN国際塾の活動の周知は十分できている。また、入学生入塾率も63%となり、多くの生徒が活動している。「サイエンスチャレンジ岡山2022」では高校生も含めた参加者の中で5位に入賞するなど、県内外の大会で活躍した。

④教科研究を通して、グローバル・リーダーに必要な資質・能力「6つのスキル」を育成する。**【GLOBAL STUDIES・中学校】**

・教科研究を通してグローバル・リーダーに必要な資質・能力の向上に努めた教員が90%となった。「主体的・対話的で深い学び」を推進し、今年度Chromebookを活用した授業を行った教員は100%であった。

2 **【確かな学力の定着・授業力向上】** キャリア教育の充実を通して、生徒一人一人が主体的に学習に向かえるよう意識の向上を図り、新たな大学入試に対応する知識を活用する力や思考力・判断力・表現力など確かな学力を定着させる。また、新学習指導要領への対応など、教職員の資質・能力の向上を図る。

①全教職員が、教科指導を通してグローバル・リーダー育成という学校経営の重点目

標に向かえるように、SOZAN Global Can-do Listに基づいた研究授業を行い、授業改善や Chromebook の活用を促す。また、互いに授業参観をし、意見交換や協議の場を設定する。課題研究メソッドを学び、探究活動における指導に役立てる。【職員研修係】

- ・ 2 学期終了までに全教員が SOZAN Global Can-do List を意識した研究授業や Chromebook を活用した研究授業を指導案を作成して実施した。また、同時期までに 2 時間以上の授業参観をすべての教員が実施した。課題研究メソッドについて大学教授を招聘し職員研修を実施し、生徒の論文執筆の指導や探究活動の指導に役立てている。あわせて職員研修を実施した。
- ② 生徒の学習状況及び学習定着状況や課題を明確にするため、生活実態調査などの調査やテストの結果をもとにした多面的な資料を作成し、懇談等で効果的に生徒・保護者・教員へフィードバックを行う。【キャリアガイダンス係】
- ・ 第 2 回生活実態調査において、家庭学習時間（塾を含む）週 18 時間以上確保している割合は、学年間で多少の差異はあるものの 80% 近くある。しかし、前年度に比べると低下しているため、進路課通信に結果を記載して学級での指導を促し、懇談でも話題にしている。また、進路課通信では、東京研修時にいただいた卒業生の話も記載し、生徒たちの進路選択、生活改善に役立つようにした。
  - ・ 総合学力調査、学力推移調査の結果を 2 学期懇談時に返却し、保護者と共に振り返るように設定した。

### 3 【生徒に対する総合的な支援の推進】 生徒の心身の健康の増進と自己肯定感の高揚を図る。また、安心安全な教育環境の整備を図るとともに、環境美化を推進する。

- ① 基本的生活習慣の確立のため、生活実態調査を毎学期実施する。パソコンの使用時間は学習に使用した時間と娯楽としての使用時間を分けて調査する。また進路課と連携し生活実態調査の分析を行い、その結果を年間 3 回、懇談等を通じて生徒個人へ自身の調査結果の変遷を伝えて改善を促す。【生活指導係】
- ・ 学校自己評価の「見直すことができている」に関する回答は、今年度は 70.3% であり、昨年度からは 9% の上昇となった。しかし、数値としてはまだ十分とは言えず、来年度は 80% を目指して生活習慣の見直しを喚起していきたい。
- ② 交通委員会や交通担当の教員を中心に、登下校時の交通指導を年間を通して実施する。交通委員会を効果的に活動させ、二重施錠の点検(月 3～4 回)や二重施錠の朝の呼びかけ運動(月 3～4 回)を行う。また、交通安全に向け反射材着用の呼びかけ運動（後期）を行う。【交通指導係】
- ・ 学校自己評価「委員会活動や下校指導を通して、交通マナーを守るように努めることができている」において、生徒の「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答する割合は 93.8% となった。
  - ・ 岡山県警主催の鍵かけコンテストにおいて施錠率は昨年度未滿となり、来年度は優秀校に選出されるように取組を見直したい。
- ③ よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、教科書を中心に読み物教材や教科書の内容にある役割演技を行い、平和学習、人権学習、SNS 等に関する学習を通して、物事を広い視野から多面的・多角的に考える力や道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。【道徳】

- ④いじめ予防・自殺予防のために ASSESS などの調査を活用し、生徒の様子を意識してつかむようにする。いじめの認知を積極的に行うことで初期の段階で対応し、深刻化する前に解消できるように取り組んでいく。【人権教育係】
- ・人権アンケート「人を傷つける言葉を使ったり、陰で悪口を言わない」において「あてはまる」と回答した生徒は94%、「お互いの良さを認め合い、困っている人に手を貸している」において「あてはまる」と答えた生徒は95%で、達成基準をクリアした。
- ⑤教育支援が必要な生徒に適切に対応するため、学習面や行動面、また、日常的な生活部分での校内支援体制を整備し、保護者との連携を密にするとともに、個別の支援計画を作成する。必要に応じて外部機関との連携を密にする。【特別支援教育係】
- ・保護者や SC や SSW といった外部機関との連携・協力を図りながら、対象生徒の効果的な支援に生かすことができた。
  - ・生徒の支援計画を作成・更新することができた。また、学期ごとに高校との情報交換を行い、進学後の様子や中学校での対応への情報共有も行えた。
- ⑥災害・避難情報：緊急速報メールなどに基づく抜き打ち避難訓練を行い、生徒の防災に関する意識を高めることで、健康で安全な生活を送るために必要なこと考えさせる。
- ・学校自己評価「学校では、いろいろな場面で健康で安全な生活を送るために必要なこと学べる機会がある」において、生徒の「よく当てはまる」と回答する割合は54%であった。
- ⑦利用価値の高い新刊図書の選定・購入及び図書便りなどの発行によりメディアルームや高校図書館の利用を促進させる。また、学級文庫の工夫により生徒の読書意欲を喚起する。【図書教育係】
- ・学校自己評価の「自己の教養を深めたり、各教科・未来航路の学習を進めたりするために図書館を利用している」の質問に対して、「よく当てはまる」と回答する割合は20%程度にとどまった。これは、コロナ禍のために中学校図書館の開館を週2日のみとしていることが影響していると思われるが、高校図書館を利用している生徒も多い。
  - ・図書委員の活動により図書便りの発行や学級文庫の選書をしているが、依然一部の利用に留まっている。3年生は未来航路の卒論を学びに足を運ぶことが増えたが、他学年の生徒にも活用を促したり、蔵書点検をしたりすることで、魅力ある図書館作りを再考する。
- ⑧技術・家庭科、生徒指導、未来航路の学習と連携し、生徒の情報活用能力を目指した授業を実施する。また、IT機器の正しい活用方法の指導に関して、情報モラル、メディアリテラシーの向上を目指した授業を1回以上実施する。【情報教育係】
- ・学校自己評価の「情報モラル、メディアリテラシーの向上のために安全に利用することについて考える講演会や授業を行っている」の回答が「よく当てはまる」「やや当てはまる」合わせて89%であった。引き続き、情報モラルについて指導を続けていきたい。

4 【開かれた学校づくりの推進】 積極的かつ魅力的な情報発信に努め、開かれた学校づくりを推進する。また、生徒の校外での活動機会を拡充し、教育効果の向上を図

る。

①生徒や保護者、地域社会の期待に応える教育活動の在り方を検討し、改善を図る。より良い教育活動を展開するために、学校自己評価のアンケート項目の見直し・精選を各課長に依頼し、学校自己評価アンケートに生かす。学校自己評価のアンケートの分析結果を2月の保健委員会、またホームページを通して保護者に伝える。【教育評価係】

- ・1学期中に各課長とアンケート項目の決定を行い、11月にGoogle Form でアンケートを実施した。結果については令和3年度との比較ができるような形式で表示した。結果及び分析について今後学校保健委員会やホームページで一般公開をする予定である。
- ・学校自己評価のアンケートの結果を分析し、次年度の教育課程編成に活用した。

②社会人として活躍している卒業生の人材を活用する。進路課と連携し、東京研修や京都研修で社会人として活躍している卒業生の講話会を設定する。【総務課】

- ・東京研修では社会で活躍する卒業生（2期生）に講義をしてもらうなど、岡山操山のつながりの強さを感じることができた。また、京都大学訪問時に、卒業生と交流することができた。
- ・人材バンクを活用し、来年度のスクールガイドの原稿依頼も行うことができた。

③中学校授業公開で、さらなる本校の魅力を広く発信する。ホームページの高い更新頻度を継続する。スクールガイド改訂に伴い1年生の生徒や保護者、教職員の意見をもとに、改訂に取り組む。【広報活動係】

- ・10月の学校説明会では640名の参加者に本校の特色を伝えることができた。
- ・アンケートをもとに来年度のスクールガイド改訂に向け、レイアウトの変更など担当者と打ち合わせを行い、レイアウトを完成させることができた。5月の中高授業公開に配付する。

④新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえた上で、各学年1回の健康教育講演会を設定し、できるだけ実施していく方向で考える。【安全管理課・指導課】

- ・睡眠健康教育講演会（1年）、食育健康教育講演会（2年）は実施済み。性教育講演会（3年）はリモートで実施済み。

**5 【組織の活性化・業務の効率化の推進】** 学校の課題や将来ビジョンをすべての教職員が共有し、ベクトルの合った業務を遂行するとともに、働きがいのある職場を創り、業務の効率化を図る。

①今年度の運営方針及び業務計画を全教職員で共有し、全教職員が一丸となったチームとして学校運営に当たる。各自が担当の課・学年団の業務のみならず、他の課・学年、そして全体に目を配ることにより、業務の統一等の精選を図り、働き方の効率化アップを目指す。【総務課】

- ・業務計画では今年度実施できた行事を踏まえ、各学年とも更新を行うことができた。コロナ禍以前の行事を知らない教員のために業務の流れを詳しく示し、次年度へ効果的に引き継ぐことができた。

②部活動休養日を平日は木曜日、休日は原則日曜日に設定し、計画的に活動・休養が

取れるようにしていく。【指導課】

- ・各部が部活動方針に則り、計画的に休養日と活動日を設定することができた。平日2時間、休日3時間を目安に行い、ガイドラインに則した活動ができている。中には、中国大会、全国大会に出場した部活動もあった。また、本校に設置がない柔道、水泳で活躍する生徒も県大会などで優秀な成績を収めている。

## 2 学校関係者評価委員名

坂入信也（岡山大学キャリア開発センター教授）  
徳岡卓也（ベネッセホールディングス中四国支社長）  
植田朋哉（岡山市南部適応指導教室長）  
服部和博（原尾島原町内会長、宇野学区連合町内会長）  
黒崎直美（本校PTA副会長）

## 3 学校関係者評価

### 1 学校自己評価アンケート評価、コロナ対応について

- 中学・高校ともに生徒・教員のアンケート評価が下がっている。他校においても下降傾向であるが、これはコロナ対策を要因とした多忙感が生じているためではないかと思う。
- アンケート評価の結果を受けて、次年度以降どのように変えていくかが大切だ。オンラインは便利だがリアルな場を共有することで得られるものには及ばない。海外研修など、その場に行ってみないと感得できないものが大きいので、コロナ後は再開できるように考えて欲しい。
- コロナ禍においてはオンラインで授業が受けられることが大変ありがたかった。一方で、やはり直接お話を聴くことの方が生徒にとって影響力が大きい。大学教員や卒業生を招いてお話を聴く会など、可能な限りコロナ前の形式に戻して欲しい。

### 2 SOZAN国際塾の活動について

- SOZAN国際塾の活動については参加自由としているが、全校生徒が取り組むようなものをもっとあっても良いと感じる。入塾を全員参加としてはどうか。

### 3 部活動について

- 中学校には部活動が少なく、自分がやりたいことができていない生徒もいる。高校にその部活動があれば、中高生と一緒に活動することは考えられないか。中高一貫教育校の利点を生かしてもらいたい。
- 家庭の予定等もあるので部活動の予定は早めに連絡して欲しい。

### 4 学校が発信する情報について

- ホームページ等で情報を発信しているが、その内容をさらに具体的で良い印象が残るものにして欲しい。若者の多くはInstagramを利用している。SNSのツールも何を利用するか研究してみてはどうか。

## 5 課題の連絡について

○Chromebookで課題の連絡が届くようになっているが、提出期限までに余裕をもって配信して欲しい。期限間近での配信とならないよう全教員で確認してもらいたい。

## 4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

### 1 【グローバル・リーダーの育成】

- ・中高6年間を見通し、高校での研究を参考にしながら未来航路プロジェクトにおける課題追究活動を推進する。
- ・感染状況等を見ながら SOZAN 国際塾のプログラムを活用し、地域連携・中高連携を深める。
- ・SOZAN Global Can-do List に基づいた授業づくりをさらに推進する。

### 2 【確かな学力の定着・授業力向上】

- ・SOZAN Global Can-do List に基づいた研究授業、また相互の授業参観を通じて教員の授業力向上を図り、生徒の学力向上につなげる。
- ・家庭学習習慣の重要性を一層啓発し、学力の定着を図る。

### 3 【生徒に対する総合的な支援の推進】

- ・時代に即した校内支援体制の整備や高校との情報共有等を一層推進するとともに、必要な生徒に関する個別の支援計画の作成を進める。
- ・Standby、心と体のチェックシートや ASSESS の結果などを分析・活用しながら、心身の健康状態を把握し、気になる生徒の早期発見・早期対応につなげる。
- ・安心安全な教育環境の整備を図るとともに、清掃活動を推進する。

### 4 【開かれた学校づくりの推進】

- ・学校評価アンケートの実施から集計及び結果まとめと分析を円滑に行い、結果の周知とともに、次年度に向けた検討を推進する。
- ・SOZAN 国際塾の取組等の広報を内外に向け積極的に行い、本校の魅力を積極的に発信する。
- ・地域住民や社会人で活用できる人材バンクの充実に向け、情報収集を行う。
- ・学年通信や学級通信、ホームページや楽メ等を通じて保護者に情報発信を行う。

### 5 【組織の活性化・業務の効率化の推進】

- ・本校に求められる教育の質を維持しながら、過剰な負担にならないよう学校行事や業務の精選を行う。
- ・学校評価書の重点化、達成基準の見直しやスケジュールの記入など、学校改善に向けたツールとして活用する。
- ・ミライムの活用により勤務実態を把握し、超過勤務の解消につなげる。